琉球大学学術リポジトリ

# 沖縄県内と沖縄県外でのアンケート調査にもとづく平和学習に関する実践研究



| メタデータ | 言語: |
| --- | --- |
| | 出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター |
| | 公開日: 2008-11-05 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: 本多, 正尚, 杉本, 善嗣, 大中, 玲奈, 中村, 宏三, 村島, 正浩, 藤本, 昌也, 井上, 哲子, 山脇, 敬一, 横町, 数則, Honda, Masanao, Sugimoto, Yoshitugu, Ohnaka, Reina, Nakamura, Kouzou, Murashima, Masahiro, Fujimoto, Masanari, Inoue, Tetsuko, Yamawaki, Keiichi, Yokocho, Kazunori |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/7793 |

# 沖縄県内と沖縄県外でのアンケート調査にもとづく平和学習に関する実践研究

本多正尚[1]，杉本善嗣[2]，大中玲奈[2]，中村宏三[2]，村島正浩[2]，
藤本昌也[2]，井上哲子[2]，山脇敬一[2]，横町数則[2]

# A Study on Practices of Peace Education Based on Questionnaires Given to Okinawan and Non-Okinawan Peoples

Masanao HONDA, Yoshitugu SUGIMOTO, Reina OHNAKA,
Kouzou NAKAMURA, Masahiro MURASHIMA, Masanari FUJIMOTO,
Tetsuko INOUE, Keiichi YAMAWAKI, Kazunori YOKOCHO

## はじめに

近年平和学習として沖縄を訪れる中学校や高等学校，あるいは沖縄での修学旅行の１つのプログラムとして平和学習を取り入れる中学校や高等学校も増えてきている．こうした沖縄で平和学習をする学校のために，学習書あるいはガイドブックも出版され，非常に役に立っている（例えば，沖縄平和ネットワーク，1997; 沖縄協会，2005）．

しかしながら，ほとんどの場合，沖縄での平和学習だけで終わってしまい，長期にわたる計画的な平和学習を実践している学校は少なく，さらにそれに関する報告はほとんどない．

そこで，今回大阪府大東市四条中学校の平和教育の実践例を報告する．この取り組みは，一つの中学校の例に過ぎないが，事前指導・事後指導やその他の関連行事を含む長期的な平和学習に関して有用な情報をもたらすと信じる．

## 教育実践

大阪府大東市立四条中学校で，2007年５月に沖縄への３年生の修学旅行が予定されており，これに付随する形で，沖縄文化・歴史に関する調べ学習とフィールドワーク，沖縄でのアンケート調査，修学旅行後の事後学習，発表会等が企画された．

対象となる生徒は，３クラス117名だった．

### １．取り組みの概要

四条中学校では，「平和学習」を「総合的な学習」（四条中学校では「ふれあい」と名称を変えている）の中で各学年を通して進めてきた（表１）．

沖縄修学旅行はその中心に位置づけられ，

[1]琉球大学教育学部
[2]大阪府大東市立四条中学校

表1．年間スケジュール．

| 時期 | 実施内容 |
|---|---|
| 2月中旬 | 取り組み開始 |
| | 沖縄調べ学習 |
| | 「沖縄クイズ」実施 |
| 3月初旬 | ＜講演＞沖縄紹介 |
| | ＜フィールドワーク＞調理実習 |
| | ＜フィールドワーク＞アンケート調査 |
| 3月中旬 | 調べ学習まとめ |
| 4月初旬 | 修学旅行実行委員会結成 |
| 5月初旬 | 沖縄戦事前学習 |
| | 保護者説明会 |
| | 映画「月桃の花」鑑賞 |
| 5月23～25日 | 修学旅行 |
| 5月下旬 | 事後学習 |
| 6月下旬 | 「発表」 |

学習してきた内容が実際に現地を訪問することでより深い理解につながることが期待されている．

取り組みが，２年次後半から３年次の前半に及ぶ長期的なものになるため，２年次の取り組みをどのように３年次に活かしていくのか心配されたが，調べもの学習を中心においたことで，切れ目のはっきりした内容となった．

３年生の開始とともに，３年の生徒会執行部及び，学級委員会を中心に定め，更に希望者を募り，修学旅行実行委員会が結成された．企画，立案はこの委員会を通して各クラスに報告されることとした．修学旅行の目的を「平和の大切さを学ぶ」「沖縄の文化・自然を体験する」「クラス・学年の団結を深める」とし，その後は，修学旅行実行委員会，専門委員会，クラスが３つの歯車となって学年を動かしていった．

５月９日には，保護者向け説明会を修学旅行実行委員会の生徒によって行った．

## ２．調べ学習

各クラスを，１）沖縄戦，沖縄の歴史，２）沖縄の生活，文化，３）沖縄の自然，環境，４）沖縄の食生活，５）観光スポット，６）現在の沖縄（基地問題）の６班に分けて，そのテーマごとに３クラスから１班（６，７名で構成されている）ずつが集まり，班ごとに違いを出すために，各テーマをさらに細分化して調べ学習をおこなった．

調べた内容は模造紙に記入し，学年の廊下に掲示した．２年生から３年生にまたがる取り組みになったが，３年生の廊下にはその模造紙が修学旅行の当日まで掲示され，学年の意識を高めるばかりでなく，参観に訪れた多くの保護者の目に触れることもできた．

目玉となったのは，１）と６）のグループ合同の大東市住道駅前での街頭アンケートであった（後述）．大阪と沖縄で同じ内容の質問をすることで，「平和」に対する違いが表れる事が予想された．街頭に出て行き交う人々に声をかけてアンケートをすることに，はじめは尻込みをしていた生徒達も，殆どの回答者が好意的に答えて頂けることに気を良くしたのか，予想を遙かに超える回答を集めることができた．生徒達にとって良い経験となった．

また，２）のグループでは，沖縄の食文化を体験しようとサータアンダギーとクファジューシーを作り，好評であった．

## ３．質問紙を用いた沖縄に関する事前学習

2007年２月に，沖縄に関する事前学習の一貫として沖縄に対してどのくらいの知識を持っているかを実感してもらう目的で，クイズ形式の質問紙を用いて学習を行った．「沖縄クイズ」と称した質問紙を用いて，沖縄に関する知識を，自由記載法（１～10），賛否法（11～20），三者択一法（21～30）で聞いた．質問紙は無記名自記式であり，アンケートを提出したのは95名であった．

その結果を表２に示す．県庁所在地，気候，中学校の授業でも扱うような項目の他，琉球王朝があったこと，第二次世界大戦中の沖縄で地上戦があったこと，チャンプルーの意味で，正解率が80％を超えた．これに対して，沖縄島北部（ヤンバル）に棲む国の特別天然

記念物の鳥の名前，「金武」の読み方，第二尚家の最初の王の名前，慰霊の日に関する質問では，正解者は１名もいなかった．

表２．沖縄クイズの問題と正答率（%）．

| 質問内容 | 正解率 |
|---|---|
| 1．沖縄県の県庁所在地は？ | 83.2 |
| 2．日本に復帰したのは何年？ | 1.1 |
| 3．女性の平均寿命は全国何位？ | 47.4 |
| 4．沖縄諸島の方言で「ようこそ」は？ | 7.4 |
| 5．お盆に踊られる伝統的な踊りは？ | 51.6 |
| 6．沖縄島北部にいる国の特別天然記念物の鳥は？ | 0.0 |
| 7．「金武」は何と読む？ | 0.0 |
| 8．第二尚氏の最初の王は? | 0.0 |
| 9．沖縄そばの麺の原料は何？ | 17.9 |
| 10．沖縄県にしかない休日は？ | 0.0 |
| 11．沖縄県はむかし独立した国だった？ | 81.1 |
| 12．沖縄県では第二次大戦中に地上戦があった？ | 88.4 |
| 13．沖縄島と石垣島は，名古屋と東京の間より離れている？ | 32.6 |
| 14．沖縄県では車は右側通行である？ | 40.0 |
| 15．沖縄県では南十字星が見える？ | 66.3 |
| 16．三線の胴に貼られている皮はハブの皮である？ | 31.6 |
| 17．沖縄県の気候は熱帯に属する？ | 27.4 |
| 18．沖縄県ではヘチマは食用にする？ | 51.6 |
| 19．沖縄県にも雪が降る？ | 81.1 |
| 20．沖縄県の米軍基地の住所はカリフォルニア州である？ | 35.8 |
| 21．沖縄県はどんなところにある県？ | 23.2 |
| 22．沖縄県には日本の米軍基地の何パーセントがある？ | 38.9 |
| 23．沖縄県で桜はいつ咲く？ | 26.3 |
| 24．沖縄県の梅雨はいつ？ | 30.5 |
| 25．沖縄県に鉄道はある？ | 62.1 |
| 26．タコライスはどんな物が入っている？ | 22.1 |
| 27．沖縄県の県の花は？ | 21.1 |
| 28．沖縄県で方位を示す「西」はどう読む？ | 49.5 |
| 29．驚いた時に落してしまう「マブイ」とは何でしょう？ | 48.4 |
| 30．「チャンプルー」の元々の意味は何でしょう？ | 84.2 |
| 全体平均 | 37.1 |

## 4．中学校での「出前」授業

2007年３月５日５・６時限目に著者の一人である本多が，四条中学校を訪れて，沖縄に関する講演を行った．

内容に関しては，「沖縄クイズ」に対応する形で，沖縄の自然や文化から，戦争と基地問題について液晶プロジェクターのスライドを用いて，体育館で行った．各設問に対する正解と正解率を示し，問題の解説やそれに関連する事項の説明を行った．時間配分は，戦争と基地問題を多く解説して平和学習に特化するのではなく，自然や文化等の解説の分量を多くして，まず沖縄に興味を持ってもらうように努めた．

最後に，質疑応答の時間を設け，中学生からの質問に講師が答えた．

このように修学旅行で訪れる沖縄に関する解説を沖縄に在住する者が行うことは，単に学校教員が説明する以上の効果があったと思われる．

## 5．大阪でのアンケート調査

大阪での調査は，2007年３月にＪＲ学園都市線住道駅に出向き，そこを利用する男女を対象として行った．方法は，無記名自記式質問紙によるアンケートを用いた．140人からアンケートを回収し，そのうち139人から有効回答を得た．

この調査により，沖縄のイメージとしては，10代から30代では海，40代以上では戦争と答える割合が多かったこと，沖縄で訪れて見たい場所は，10代から30代では国際通りと答える割合が多かったこと，中学校の修学旅行に求められるものは，10代から30代では観光，40代以上では体験学習と答える割合が多かったこと等が明らかになった．詳細は，本多他（2008）に述べられている．

## 6．修学旅行の概要

2007年５月23から25日まで，２泊３日の修学旅行が行われた（表３）．梅雨の期間にも関わらず，３日間ともに晴天だった．バス

はクラス毎に３台に分乗した．

表３．修学旅行で実施された内容と日程．

| 日程 | 内容 |
|---|---|
| １日目 | 那覇空港着 |
| | ひめゆり平和祈念資料館 |
| | 平和祈念公園（平和の礎） |
| | 戦争体験者講演（ホテル） |
| ２日目 | タクシー研修 |
| | (各班でのアンケート調査) |
| | マリン体験 |
| | エイサー体験 |
| | クラスミーティング |
| ３日目 | 首里城 |
| | 国際通り（自由行動） |
| | 那覇空港発 |

第１日目に関しては，琉球大学教育学部の卒業生と学生各１名に参加してもらい，著者の一人である本多も含めて，沖縄在住の者が各バス内で沖縄に関する説明や質問に対応するようにした．また，各バスには，担任等の教員の他に，バスガイドも乗車し，案内を行った．

南部のひめゆり平和祈念資料館では，同年代の生徒の手記を熱心に読んでいた．単に戦争という全体的な内容を授業で聞くよりも，実際に体験した同年代の生徒がそれぞれどのように感じたかを，自分のペースで読むことは，生徒にとって強烈な印象となったに違いない．

その後に訪れた平和祈念公園では，千羽鶴を奉納し，平和セレモニーを生徒の司会で行った．時間的に平和祈念資料館内を訪れることができなかったのが残念だが，それでも生徒は石碑に刻まれた沖縄戦の戦死者名の多さに驚いていた．

次に糸数壕（アブチラガマ）とクラシンジョウ壕に分かれて，ガマの見学を行った．見学に際して，地元のガイドの方に解説をお願いした．ガマの中で懐中電灯を消し，漆黒の闇となった時には，生徒の一部からは悲鳴が上がっていた．

第１日目の夜には，宿泊先のホテルにて，元小学校長の長田勝男氏の戦争体験に基づく講話を聞いた．人の生死に関わる内容に，中学生も真剣に耳を傾けていた．

第２日目は，朝８時からから４から５名の各クラス９つの班に分かれてタクシーに分乗し，事前に各班で自由に行き先を設定し，那覇から名護まで向かった（表４）．その途中に出会った人々に対して，沖縄でのアンケート調査を実施した（後述）．

タクシー研修後の集合場所は，第２日目の宿泊先のホテルとし，予定通り15時までに全員到着した．タクシーの運転手は，中学生が最も長く接した沖縄在住者であり，途中で興味深い話を聞いたグループもあり，かなり印象に残ったようである．

15時30分からは，ホテル隣接のビーチでマリン体験を実施した．この時期の沖縄で最も心配になるのが天候であるが，梅雨の時期にも関わらず好天だった．生徒達はバナナボート等の楽しいアクティビティを楽しんだ．

夕食後は，エイサー活動団体を招き，演舞とその後のエイサー体験を行った．エイサーの基本的な踊り方，太鼓のたたき方を習い，最後は教員も一緒に曲に合わせて踊った．

最終日である第３日目は，首里城を見学し，その後，国際通りで各自市場の見学や土産物の購入を行った．

表４．タクシー研修のコースの例．

| コース |
|---|
| 安保の見える丘[1]→ナゴパイナップルパーク→むら咲むら |
| 安保の見える丘[1]→ナゴパイナップルパーク→美ら海水族館 |
| 辺野古→ナゴパイナップルパーク→美ら海水族館 |
| 座喜味城跡→ナゴパイナップルパーク→美ら海水族館 |
| 読谷村役場[2]→ナゴパイナップルパーク→美ら海水族館 |
| アメリカンビレッジ→ナゴパイナップルパーク→美ら海水族館 |
| ブルーシールアイス→象の檻[3]→海→美ら海水族館 |
| 乗馬体験→辺野古→ナゴパイナップルパーク→美ら海水族館 |
| チビチリガマ→ナゴパイナップルパーク→美ら海水族館 |

[1]嘉手納飛行場横の小丘で，そこから飛行場を見渡していたが，現在はその横に「道の駅かでな」から基地内が観察できる．また，「道の駅かでな」では，飲食物や土産物の販売もある．
[2]読谷村役場横には，当時金城実氏の平和モニュメントが展示してあった．
[3]読谷村にあった楚辺通信所の通称で，現在は撤去されて存在しない．

## 7．沖縄でのアンケート調査

沖縄での調査は，修学旅行第２日目である2007年５月24日の沖縄本島内でのタクシー研修の際に，那覇から名護に向かう途中出会った男女に対して行った．ただし，出身地に関する質問は行わず，観光客に見えない者を沖縄在住者として，調査対象にした．

この調査と大阪での調査を組み合わせることにより，沖縄県外在住者が行ってみたい場所は，首里城，ひめゆり平和祈念資料館が多く，これに対して沖縄県内在住者が来てもらいたい場所は，美ら海水族館，平和祈念公園が多くなり，これらの間の認識の違いが明らかになった．一方，基地に関しては，一見すると不要と答える割合が多くなりそうな沖縄県内在住者の回答が，沖縄県外在住者と差がないことがわかり，見事に予想を裏切られることになった．詳細は，本多他（2008）に述べられている．

## 8．修学旅行に対する事後評価

修学旅行後に，事後学習の一貫として，無記名自記式アンケートを用いて事後評価を行った．項目は，「目的を持って修学旅行に行けたか」「事前学習は十分か」「沖縄で感じた戦争の悲惨さはどうか」「平和学習以外の沖縄の印象はどうか」「平和学習の総合的な自己採点」を５段階評定法で聞いたものと，「一番印象に残った場所や施設名とその感想」と自由記載法で聞いたものとである．５段階評定法のものは，「良い」「十分」を５点，「どちらでもない」を３点，「悪い」「不十分」を１点として，その間を４点，２点とした．

アンケートの各項目の平均点を表５に示す．性別と沖縄訪問の有無を要因とした２元配置の分散分析を行ったところ，「目的」で性別と沖縄訪問の有無の交互作用が有意になったこと以外は，それぞれの要因および交互作用に有意差は認められなかった．そこで，全体に対して中間を除いて肯定側（良い等：５点，少し良い等：４点）と否定側（悪い等：１点，少し悪い等：２点）の全体の人数は，二項検定でどの項目でも有意に１対１から肯定側にずれていた．すなわち，概ね生徒の評価は高かったと判断できた．

表５．各質問項目の平均点．

| 質問項目 | 男子 | 女子 | 全体 |
|---|---|---|---|
| 目的 | 4.08 | 4.04 | 4.06 |
| 事前学習 | 3.56 | 3.48 | 3.52 |
| 戦争の悲惨さ | 4.66 | 4.69 | 4.67 |
| 沖縄の印象 | 4.62 | 4.71 | 4.66 |
| 総合評価 | 3.96 | 4.06 | 4.01 |

一番印象に残った施設や場所に関する質問では，マリン体験が最も多かった（表６）．平和学習を主眼にした修学旅行でもやはりこうした体験が一番印象に残るのかもしれない．

表６．一番印象に残った施設や場所．男女の合計が２名以下のものは省略した．

| 施設名 | 男子 | 女子 |
|---|---|---|
| マリン体験 | 15 | 14 |
| ガマ | 7 | 7 |
| 美ら海水族館 | 6 | 4 |
| エイサー体験 | 2 | 7 |
| 海 | 4 | 5 |
| タクシー研修 | 5 | 1 |
| 国際通り | 1 | 2 |
| パイナップルパーク | 1 | 2 |

## 6．発表

「総合的な学習」の締めくくりとして，四条中学校では６月23日の慰霊の日に合わせて，修学旅行で学んできたことを発表する「情報発信」の場を設けている．

今回は，５月に鑑賞した「月桃の花」をベースに，沖縄で学習してきた内容を付け加えた脚本を作り，舞台発表という形で「平和学習」を発信した．

ガマの中で起こったできこと，聞き取りで聞いた内容，詩の群読，エイサーとこれまで学んできたものを総まとめにした発表となった．

在校生の１，２年生，保護者ばかりでなく，演じていた３年生にとっても感銘できる内容に仕上がった．

## 考　察

大阪府大東市立である四条中学校の現３年生は，同市小学校６年次の広島修学旅行で，被爆者の聞き取りを行っている．それに引き続いた形で，中学校で今回沖縄での平和学習に取り組めたことは，継続した「平和」への取り組みとして非常に意義深い．今回の修学旅行の取り組みが比較的スムーズに進んだのは，小学校での種々の取り組みが充実していたことも一因である．

最近の修学旅行が「平和学習」から「体験学習」へシフトしていることを考えると，「平和を考える場」としての修学旅行の大切さをさらに実感する．

また，今回行った街頭アンケートの結果は，教師自身が平和学習を進める意欲を高める結果ともなった．

「平和学習」は学校教育の中でも根幹をなすものであるが，概して表面的なものに終始してしまい，心に訴えるものにならないことが多い．私たちは「学習してきたもの」が自分たちの学校生活と有機的に結びつくことが大切であると考えている．次に挙げた平和アピールの最後を締めくくった文章は常に心に留めておきたい．

*『自分たちの学校生活の中で，自分の心と向かい合い，相手の気持ちになって行動し，お互いを認めあうことが「平和を守る」ことにつながっていくのだと思います．』*

## 引用文献

沖縄平和ネットワーク (1997) 新歩く・みる・考える沖縄，沖縄時事出版

沖縄協会 (2005) 平和学習ハンドブック清ら島沖縄増補改訂版，日本広報センター

本多正尚・杉本善嗣・大中玲奈・中村宏三・村島正浩・藤本昌也・井上哲子・山脇敬一・横町数則 (2008) 平和学習に対する意識の地域差−沖縄と大阪の比較，琉球大学教育学部紀要 72：79-84